

別府市公共交通活性化協議会 議事録

日 時：平成 30 年 3 月 27 日（火） 14：00～15：00

場 所：レセプションホール

◆意見要旨

開会

事務局：20人の出席により、規約を満たしている。

会 長：本年度は高齢者の移動支援としてバスの半額補助や東山地区でのみんなのタクシー運行などを進めさせてもらった。また、福岡県への視察にも御参加いただきありがとうございました。今日は今年度最後の協議会となるので有意義な議論をしていただければと思う。

1 報告

(1) 委員の交代について

（事務局説明）説明内容省略

(2) 平成29年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持改善計画）事業評価の書面会議結果について

（事務局説明）説明内容省略

(3) 公共交通先進地視察の実施結果について

（事務局説明）説明内容省略

（質議応答）なし

2 議題

(1) 東山地区事前予約型乗合タクシー実証運行計画（変更案）及び実証運行実施状況報告について

（事務局説明）説明内容省略

（質議応答）以下のとおり

委員 ①：精神障害者の方の半額の適用について、県下の乗合バスでは4月から半額になるが、精神障害者保健福祉手帳に写真がついていないと半額にならない。できればこの計画変更の文面の中にも括弧書きで写真付きとした方が良いのではないかと。

事務局：みんなのタクシーでは事前登録いただいた方に利用券をお配りしており、障害者手帳をお持ちの方には事前登録の際に手帳と本人を確認させていただいています。

御意見いただきました件につきましては、障害者手帳をその都度確認しておらず、利用登録の時点で確認しているということから、御了解いただければと思います。

会長：アンケートの中で時間が早いという意見がでていたが、今後のスケジュールとしてどう対応を考えているか。

事務局：現在7時30分の便を利用されている方は主に病院を利用される方で、それ以外の方はそこまで早い時間帯でなくても良く、逆にお買い物をされる方は、開店までの待ち時間があると言ったご意見があるので、タクシー事業者の方と打ち合わせさせていただき、了承いただけたら地元と最終的に協議し、活性化協議会でご承認をいただき変更していくといったスケジュールを考えております。

(協議結果) 原案のとおり承認

3 その他

委員②：大分県中部圏地域公共交通網形成計画について

大分県、大分市、別府市、由布市での公共交通マスタープランとして「大分県中部圏地域公共交通網形成計画」を今年度作成した。来年度は中部圏で再編実施計画を作成する予定となっている。今回のマスタープランは全体的な計画だが、次は実際にどういう風にして地域の公共交通を維持していくかというプランを来年度作成する予定。

再編計画について、大分県内では北部圏、豊肥圏は作成済みで南部圏は今年度作成中。再編実施計画を作り国の認定を受けることによりメリット、デメリットもある。

一度作ったら終わりではなく、何度も見直しをはかりながら地域に必要な公共交通は何かを突き詰めて計画を作っていきたい。

委員③：エアライナーの増便について

訪日外国人の増加と共に大分空港の利用者も増加していることから、3月1日から別府駅と大分空港を結ぶ便を12便から17便に約1.5倍増便した。

また、ラグビーワールドカップを盛り上げていきたいということから、エアライナー全てに特別仕様のナンバーを付けている。

委員③：バスロケーションシステムの導入について

平成30年度中に、大分・別府都市圏にバスロケーションシステムを導入する予定としている。これは、国、県、市、バス事業者の協調補助で行う。

バスロケーションシステムは、携帯電話でバスの接近情報等が確認できるもので、今回の目玉としては、バス事業者の垣根を越えて大分交通、亀の井バス、大分バス各社の情報を同時に検索することが出来ることや、インバウンド対策の補助という点から、5言語対応（日、英、韓、中(繁体・簡体)）となっている。

委員④：3月17日に市内路線バスのダイヤ改正により、ゆふりん等の増便を行った。

別府市における地域公共交通に対する市民の理解がここ数年で理解が高まってきており、お出かけ支援の回数券がお年寄りに好評で、あきらかに利用者が増えてきた。また、インバウンドによる市内バス路線での乗客も増加している。

バス業界は深刻なドライバー不足に陥っているが、どこに仕事を集中させるのか、お客様に迷惑がかからないようにするために本数の維持をしながら、浮いたところを持っていくということをやっている。

ゆふりんなど乗れないことがあることから、臨時便を付けるなどの対応により、市民の皆様に迷惑をかけないようにする方針である。

また、鉄輪バスセンターを綺麗にしたら非常に評判が良く、乗車券販売やバスの案内、インターナショナルプラザの多言語による観光案内など非常にマッチングしており喜ばれている。

地域の足を守ることが使命だと思っているので何かあれば言っていただきたい。

委員 ⑤： j R九州の現状とダイヤ改正について

J R九州については株式上場したが、鉄道事業だけでは100億円弱の赤字という状況である。セグメントでは4：6（鉄道：その他）となっている。

昭和62年にJ R九州ができた当初、別府駅は上下で115本位、今は161本と30年で大增発をしてきており、平成27年にも大分シティが出来大增発してきた。

今回のダイヤ改正により別府駅では合計6本減便（ソニック朝晩2本、普通4本）となっている。J Rとしても減らしたくはないが、大改革を行っていかなければ会社の存続が危うい。

SSS（スマートサポートステーション）については大分駅を中心に10駅が対象となっており、無人駅にしてサポートステーションセンターに人を集め、カメラで常に無人駅を監視し、何かあれば機動要員が対応するようにしている。

体が不自由な方にも迷惑をかけないように色々仕組みを考え進めていきたい。

委員 ⑥： 県の計画について、今後、広域でよりバスを利用しやすくなるように再編を進めていきたいと思う。

別府市で既に出来ている計画との連携を意識し、不便になる再編ではなく、今減りつつあるバスの乗務員にあまり苦勞をかけないように、住民の利便性があがっていく再編へと進めていきたいと考えている。

東山乗合タクシーについて質問だがバスの時との利用者数の変化などは把握しているか。バスと比べてどっちが良かったか意見が割れている。バスの時より利用者が減っているようならバスに戻すことも検討しないといけない。

事務局： 平成28年度実施した定時定路線の乗合タクシーと比べると期間中の利用者が129人で1日あたり4.5人1便あたり1.13人だった前回に対して、今回の事前予約型乗合タクシーは1便あたり2.1人と利用人数は今回の方が増えている。

意見が割れている理由としては、柚の木線、境線とバス路線が2本あり、今回の乗合タクシーは柚の木線の便に合わせて時間を設定しているため、堺線を利用していた方は10時代のバスを利用していたので時間が早すぎるといった意見があり、また、バス路線の沿線の方はバス停に非常に近いのでバスの方が良かった、また、枝郷などバス路線がなかった地域の方はドア to ドアで自宅まで来てくれるので非常に便利になったと意見があるなど、お住まいの地域によって意見がわかれていると推測される。

委員 ⑦： 70歳以上のおでかけ支援のバス回数券について、最初は使い方がわからないとい

う方が多かった。高齢者が使いやすく、また、運転手にもわかりやすい形を考えていてもらいたい。

会 長： 販売する際に窓口では丁寧に説明しているがまだ定着していないということは担当課につたえておきたい。理想的には I C カードにするのが良いが莫大な費用がかかるので回数券で運転手さんに迷惑をかけないように考慮していきたい。

事 務 局： みんなのタクシー実証運行計画の変更については承認をいただいたので所要の手続きに入りたい。また、次回の活性化協議会についてはゴールデンウィーク前後に開催を予定。

閉会